



官刻

孝義錄

卷十一

上野
下野

9
1596
11



1596



孝義錄卷之十一

上野國

奇特者

所代官支配所
群馬郡下瀧村

奇特者

同支配所
新田郡尾島村

孝行者

同支配所
邑樂郡板倉村

孝行者

同支配所

孝行者

同支配所
甘樂郡麻生村

○孝行者

同支配所
甘樂郡馬山村

孝義錄卷之十一

名主

天田善玄

寛政五年
御褒賞

名主

又市

寛政六年
御褒賞

百姓

市原屋

寛政六年
御褒賞

市原屋

市

同時
御褒賞

百姓

市之助

寛政六年
御褒賞

百姓

市

寛政六年
御褒賞

一

奇特者 日支配所 甘樂郡小平村

奇特者 日支配所

奇特者 日支配所

奇特者 日支配所

奇特者 日支配所 雄水郡板鼻宿

奇特者 日支配所 群馬郡上新田

孝行者 松本久五郎領分 館林城下枝木町

奇特者 日支配所 館林城下塚場町

元若主

若主

新藏 寬政六年 濟慶長

若史 日時 濟慶長

年壽 日時 濟慶長

百姓代 日時 濟慶長

在內 寬政七年 濟慶長

金七 寬政十年 濟慶長

又市 寶曆三年 濟慶長

十左衛門 日時 濟慶長

本陣在清父

若主

町人

又市伯父

奇特者 日支配所 館林城下連雀町

孝行者 日支配所 邑樂郡川俣村

孝行者 日支配所 邑樂郡谷根村

孝行者 日支配所 邑樂郡高根村

孝行者 日支配所 邑樂郡谷根村

孝行者 日支配所

孝行者 日支配所 邑樂郡吉柳村

孝行者 日支配所 邑樂郡小素系村

渡守

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

六左衛門 日時 濟慶長

嘉平次 寶曆五年 濟慶長

清吉 寶曆七年 濟慶長

三左衛門 寶曆七年 濟慶長

秋左衛門 明和五年 濟慶長

九左衛門 日時 濟慶長

三左衛門 明和七年 濟慶長

不右衛門 安永九年 濟慶長

孝行者 日領 邑樂郡南大橋村

百姓

安玄清 安永九年 褒賞

孝行者 日領 邑樂郡備中塚村

百姓新助牌

清花 天明元年 褒賞

孝行者 日領 館林城下塚場町

町人 津波右為牌

忠有馬 天明四年 褒賞

孝行者 日領 館林城下鞘町

町人

磯八 天明六年 褒賞

孝行者 日領 邑樂郡下早川田村

百姓清右為牌

庄左馬 寛政元年 褒賞

孝行者 日領 勢多郡堀越村

百姓

何平 寛政元年 褒賞

貞節者 日領 勢多郡堀越村

百姓依左為後家

治部左衛門 寛政元年 褒賞

孝行者 日領 山田郡唯上村

百姓惣七牌

治部左衛門 寛政元年 褒賞

孝行者 日領 日所

高源寺下男

幸七 日時 褒賞

忠孝者 日領 邑樂郡埋塚村

百姓左為牌

孫左衛門 寛政元年 褒賞

孝行者 日領 山田郡東長基村

百姓左為牌

幸右馬 寛政元年 褒賞

孝行者 日領 日所

町人 最左衛門家

幸七 日時 褒賞

孝行者 日領 館林城下飯沼町

町人 最左衛門家

幸七 寛政元年 褒賞

孝行者 日領 日所

町人 幸右為娘

幸七 日時 褒賞

孝行者 日領 館林城下基岩町

町人 幸右為娘

幸七 寛政元年 褒賞

孝行者 日領 館林城下片町

町人 清助後家牌

清次郎 寛政元年 褒賞

孝行者

日領

○孝行者

日領 鉸林城下並木町

孝行者

日領 鉸林城下本陣屋町

○孝行者

日領 鉸林城下目車町

孝行者

日領 鉸林城下目車町

孝行者

日領 鉸林城下塚場町

奇特者

日領 邑樂郡古越町

○孝行者

日領 邑樂郡高根村

町人平助傳

日領 三

七十一

日時 癸亥

平右衛門

癸亥 寬政元年

十右衛門

癸亥 寬政元年

文右衛門

癸亥 寬政元年

九右衛門

癸亥 寬政元年

七

癸亥 寬政元年

九右衛門

癸亥 寬政元年

十四

癸亥 寬政二年

百姓佐守馬娘

町人

町人

町人

町人

町人

奇特者

日領 松平宮藩八幡分 井樂郡下長根村

奇特者

日領 井樂郡田邊村

孝行者

日領 井樂郡上三津村

孝行者

日領 前田大和守領分 井樂郡本郷村

孝行者

日領 井樂郡黒岩村

孝行者

日領 井樂郡藤村

孝行者

日領 松平宮藩督領分 多胡郡多比良村

孝行者

日領 群馬郡下室田村

名主

名主

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

長太郎

天明四年 癸亥

長七

天明四年 癸亥

長屋

天明七年 癸亥

新屋

寬政二年 癸亥

伊左衛門

寬政二年 癸亥

和助

寬政二年 癸亥

勇七

寬政元年 癸亥

勘左衛門

寬政元年 癸亥

孝行者

日所

勤孝者

法屋

日時

孝行者

日所

日將

基天市

日時

孝行者

日所

孫田市

日時

孝行者

日所

十九馬

日時

孝行者

日所

利七

日時

忠義者

日所

七平

日時

孝行者

日所

六富在馬

日時

孝行者

日所

法市市

日時

貞節者

日所

百姓若八妻

かの

明和六年

孝行者

日所

町人孫左馬將

傳之助

明和六年

孝行者

日所

町人政左馬將

文右馬

明和六年

孝行者

日所

百姓子越娘

さ

安永五年

孝行者

日所

名主

志由人

日時

奇特者

日所

名主

中橋守右馬

天明元年

奇特者

日所

名主

三雲源太左馬

天明元年

奇特者

日所

百姓庄七賢者

玄

寛政元年

孝行者

日領 海多郡八河村

百姓

小八

三十八歳

寛政元年 喪次

孝行者

酒井我部と領分 群馬郡下高漢村

百姓

法玄彌

四十七歳

明和元年 喪次

孝行者

中根内膳知行所 台郡院田村

百姓

八節齋

三十八歳

安永五年 喪次

孝行者

進藤泰舟知行所 山田郡龍築村

百姓

六右馬

四十四歳

明和七年 喪次

孝行者

岩松玄庫知行所 新田郡下田橋村

百姓

仙助

三十三歳

天明二年 喪次

孝行者清太郎

清太郎ハ甘樂郡馬山村乃百姓まの生れつと篤實ニ
 して農業と勵むるも七十有るにまじりてせりらも教ふ
 三十有るのりつとれ父乃十有るにまじりて母と二十有
 るまのらと小とまき痛をとりけ入を後ね氣く
 けまはらゆもくまはまろく醫所り
 まれを佛神のれり又妙業ありとこまめなま
 まや小束め暮の日暮りこまらけりを看病せり
 ねらにまらつら農事めを怠りまらと隣まら
 の人く喜れまらひて看病の助けまらる人

ところの妻とびうとせけりされまはす婦のりやとて
 母乃女抱くくせぬくに耕作くまきと娘の法久
 とはぬあゝとて母れとめくつひと終をたぬうと妹
 なる人にくり縁きうて出く屋りぬうとあ持をる
 田地とてふ質ふしきと母の業を求め今いそと宅地
 乃るのて抱て娘難いせんぬふうけりよあゆ時
 ちぢれ家より火ゆりて忽にその家もとらつり
 きれと只母のたれひ道きく家財とてふ焼失
 ひと世もつりもてふよりむくふりぬきと孝ん程を
 まさつりけしむ村人ちれとらふとて家とて言ひとら

ころころ上に穀物をとめり人きり活む希い賃仕事か
 とつふ事とて母はまはひ農業を心乃まゝあらぬ
 とはぬとて組合れものともて村の人く後の妻と
 妹くけりいとはぬやうみして姑をもつて
 ころと姑をけし抱小使とてころ外なる人の業よ
 来ふと嫌ひとてはぬいぬ女乃と業のけりとて
 ころころたらしとてあ板くれをたきくまふとて
 と清む事ハ母の痛まらん事とてうけへぬとて
 綿ふくとれまをたれとてころ人れおまうとて母は
 ちかく娘とて人乃とて抱ひとて又離縁をもふと

里とある人おろふうけりともあ國乃控らけりとも
いふ使村おその云葉りりともむす子貢物と八人小先
立ておろふ先又親族ともうむ村人とも睦くむけ
ふと支配勅定の格あては地をむすにおろふ先はる
若川葉尾つを友和印公よはえあけりともむす
寛政六年九月信お弟よ反恨ともうむと給ふむす
老と昔よ技おまをとり給あとりり

岩行者まの

まの館村の坂下飯治町よとあら町人飯治の妻
なうりりいん古志北高いとりり事としておまはる

貧くもあらしりり九子りりおれ史小治とく老たる
舅姑よ初と娘二人まてまけむすまの二人のまては
その昔よはまたまうとく親族をともむす人の組乃
りのもつらうして幸にふれ人の後史とむす
かしくす先お孫よとれを後史使とふかりぬへけと
心も志らぬ人とむす人まは舅姑の心をあらしもむす
ううとくうけりり使おまを舅姑仁彦の口をりり
はる小癩病と名とて控らけりれと看病よんをこま
しておろふぬりりもあうりりとも甲斐なうあけりり
齡七十四あてうせぬ姑と今八十七に甲斐ありりまれば

老人男ありて夫のうせぬありて中風の毒り
 小者やふらとせぬと昔かみ孫と腰うらまうけあゆ
 一人男をえりかまを次まてたけきく一多女れ子小
 起臥を助るこつれをまけいんして念法よ女抱く
 二便又法道まらぬあこい人目と悲ひて洗ひて
 ぬあこい同一城小者町二十九年生けり親里たあ
 兄乃底在愛り許小姑とく一あ男とよせまはな昔
 の助けよとちるあこい親族組合のりぬまこい
 免けるよ兄のかこ小といまこ母乃おちり給へと姑の
 心をひもわり忠慮し許小部きたひ世家い嫁く

其甲て今けり小まきらん事我を意よあら次をい
 家賊さうりはくいととけはぬちりて姑とくしりや
 かくきまらん世頼りけ世とくらあのもは娘乃
 かめと人教と二十とりにあるぬ好ん今い親族の件
 小初て雇されとあり次の十三歳よあまらみけと
 又ふとくも小綿と篠巻とくふりの又作らとりく
 子業とらとくあけと世姑の女抱よれとくわあ
 多くこれ業とちりかめと直取めくけつと七八十文と
 けの賃後まれと姑のぬり給食とさうにもいし決
 あつりて孝貴といしぬれととみよをり烟草おとハ

火を掃してとてせけと杉火を焼くときくは業の
や先くは居るると其の日の人目と思ひてうく人乃新
のりふまうあゆらとせき出文を及火煙を設け
射りてきくときもきくは世に子足ハ我服ははき衣
たのこを指をりあつて合せく南とせきと常り
組合乃とれよいつはれらりていつに火をすりらん
とれ我子とありあくハ姑といたき道通人申元
まきあつてとていつて心もいいつて終ハかふ折と
何とぞと折捨とて少くも助も弟とせんたつていつ
まれとまのいつていつて安うらぬとゆふとをさかす

日々に徳巻作らぬあれは良袋とぬい感と便仕事
あつてふりやをやることと姑の見て我もとて業を
助けると老乃まもる賃錢と終入とて海りて
何らさるるとよくとまきけりてとてあひねるをさす
姑とまのうを頃とるをあふ人とな小涙たつて
終りくともかく孝巻はれとまるとまのハ終りて知
とた回くあは台裁町ととれら流身乃九た鳥とて
ゆ又助けるとと男の死や後とるともゆと出ると
たつて只姑のいつていつにのり業をこれハ九事也とゆ
感とてあ野原をたつてあまをたつてはくまきの

とて浅野の山麓に砂掘りしをりちつとをこれき津
よき人たうりしとて後河九右衛門つらう賜けりうさ
此ら依主も褒美とて寛政元年の十月五日
是をめで入娘乃とつと稚と身おろし祖母と母と
まゆりやうたうととあそびをりし

孝行者平吉師

平太師の被林の城下此並其町より北を平助うよ也
父及こくく六十四歳たうりつらぬ人如こつと
とめられたれも孝の真代高ひ平吉師の壁ぬらとと
業とて在流りもまひつとつらぬ父師の酒飯

ぬらぬ日くふのまけりさうちぬやとつとつと
ゆりゆり次々に酔ぬとて限りもたうくぬらす
てまゝ人もふぬはたさうまゝとてつとつと
置ぬを平吉師の扱ひとてまゝぬらぬ酔る
ふふふもさうまゝ父も平吉師の扱ひはら平吉師
けつと河又酔ぬのあまりに酔つとつとつと平太師
竹ちと折くまゝとて人つとつとつとつと
いさう知らるるもふとつとつとつとつと
やとあも外にふらつとつとつとつとつと
ぬるれと志とつとつとつとつとつとつと

又ゆれとくさらしとて先より父と今に農事
 勤ると好きてまゝに次耕しとてちのしとてさつりつ
 手業に出るはれ農具おとては畑はちりて父乃
 号と首元父の畑より町日とて被りしとてよみぬとて
 とて小洒着ちのと束めとてあをめをたせしおより
 町のりしはとて父家にさつされは又研ね入る事りや
 あらんとうらうめたく進んあつたは留るは家とて
 先くつてお給出しとてはつとてい者りくはひゆり
 ぬ又家業と勤めとてあつとてあつへとてはつ後ちとて
 父乃とてお給く酒の料よめてぬとてとてあらぬとて

けちあつてはゆい言ふおと出さば又妻ともいさ
 ともいされて父の衣乃洗濯する賃制して人よをた
 我男は十月のころはちとてちとてちとてちとて
 とれと領主より給養してち寛政元年十二月り
 ちとてあつとてとて

孝行者ちよ

ちよとて是樂郡高根村の百姓依志忠、養女たあり
 りとては野田樂田郡羽前村よとてちとて荒賜とては
 との娘ちりしとて八奈乃とてちよとてちよとて
 十四歳めとちりけるは又ちよとて田地一畝とてちよ

持是れとて如く田よりぬたるとしてひつゝ三年おとれ
 貢も納めゆきりしにその次に齡たけ身をとりて
 農事より入るは任を守持しそは兄なる清助はそれよ
 うせ申 昔れは素人の名を先とありて母家より
 してこれと又病からぬとち小乃の事業もたうけり
 乃ふをちよ切さ身あつた父と伯母と小急頂は皆久
 と此眼より足袋とぬり業とりてあ世後には助を
 ちのぬきうあよ父と寛政元年にちあつた子に病よ
 あつてけしと直敷着病よゆとそく曉て小乃を
 らひ其村より法身乃社より一七日あつて立願せ

しつゝその志新く申や日にうむく意りてさぬ小みえはれと
 老乃身なれと全く念らさゆきとあつたうきかく
 とあまをれは病よちあぬ事反ちよつたあもして父に
 綿への衣をせまりしと思ひつと何乃もたうもあつ
 ぬとていふとちあとい物を伯母まで我病の姓をち小
 かしてつと穢穢んといをけしとむつと乃病よ
 と此よまある病よちあつたうよ系と入つたはつと
 ちあもこ強りけえしつは直敷扇とぬる種よ系も
 出来てまよつて結りもきこらさつていふとち果
 して穢ゆといとちみえつとつとこれとちよまはれ

市立つ所小をこれゆき、曉てるとは焚火くしてぬい
 ねあけをゆきおほゆぬ或付伯母乃つふなう今
 日てかく涼切なる女抱ふゆいぬる事悦ましくは
 何とつと幸若此身とりあかく備て方苦とま
 さんどり親里に帰まうとすく流るおままとわくと
 乃ちふとけ家法んともあまのたれいつのゆら艱難
 となせんとておんらんとおのひのうらぬとやんたれ
 んまのちう結ひうとせ慰めけらまのまきりあり
 してかく備先やうおれ去をゆきゆれ里小いんはく
 きりうあうくくくく人くくは秘をらまのれい屋ん

頃主にはえまの儀長とらせう、寛政二年二月の
 夏たのりよ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

下野園

○孝行者

清代官支配所
芳賀郡西高橋村上組

○孝行者

同支配所
形次郡東菅掛村

奇特者

同支配所
郡賀郡板宿村

孝行者

同支配所
形次郡百村

○孝行者

同支配所
芳賀郡荒町

孝行者

同支配所
芳賀郡志志町

奇特者

同支配所
形次郡北原六村

嘉慶錄卷一

十一

百姓

利八

五十一歲

明和五年
清寶長

利右衛門

四十一歲

天明二年
清寶長

伊左衛門

五十九歲

天明七年
清寶長

林茂

歲不知

天明八年
清寶長

佐右衛門

二十歲

寬政六年
清寶長

徳右衛門

四十歲

寬政六年
清寶長

公孫右衛門

五十一歲

寬政六年
清寶長

荒地紀述言後集全傳次八百姓

名五

奇特者

日支配所
内所

孝行者

日支配所
形次形次左本村

奇特者

日支配所
都賀形次引田村

孝行者

日支配所
都賀形次石屋町

孝行者

日支配所
都賀形次板根町

孝行者

日支配所
都賀形次板根町

孝行者

日支配所
河内形次岩沼村

奇特者

日支配所
都賀形次大工町

第百五十一

勸解屋

日時
行慶長

三十一歲

天明七年

五十八歲

天明六年

二十三歲

天明六年

二十九歲

天明八年

三十三歲

天明八年

三十七歲

天明八年

三十五歲

天明八年

百姓源盛

百姓源盛

百姓

町人指物屋

町人飯沼

町人指物屋

百姓

町人米屋

百姓

百姓清八法家

名主

名主

百姓

百姓

百姓長吉

百姓

天明六年

天明六年

天明六年

天明八年

天明八年

天明八年

天明八年

天明八年

義助

天明六年

九人

天明五年

河津半之助

天明六年

宇津権右衛門

天明六年

林田市

天明五年

与平次

安永五年

森助

天明元年

紋七

天明元年

孝行者

日支配所
河内形次東刑部村

孝行者 日領 塩谷郡高塩村

孝行者 日領 河内郡藤山村

孝行者 日領 塩谷郡民家村

孝行者 日領 芳賀郡小里村

孝行者 日領 河内郡東河村

孝行者 日領

孝行者 日領

孝行者 日領 宇津宮城下町

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

長茂 三十五歳 天明元年 喪

長茂 四十七歳 天明元年 喪

長茂 五十三歳 天明二年 喪

長茂 二十歳 天明三年 喪

長茂 四十二歳 天明三年 喪

仲吉 十五歳 日時 喪

乙吉 十歳 日時 喪

長茂 三十五歳 寛政元年 喪

孝行者 日領

忠義者 日領 宇津宮城下町

孝行者 日領 高尾丹波守領分 郡賀郡下稻葉村

奇特者 日領 高尾郡國台村

奇特者 日領 高尾郡城守領分 郡賀郡三橋村

奇特者 日領 高尾郡大木次村

孝行者 日領 高尾郡大木次村

孝行者 日領

長茂

長茂 二十歳 日時 喪

友七 二十五歳 寛政元年 喪

友七 二十五歳 安永九年 喪

友七 二十五歳 天明七年 喪

友七 二十五歳 天明四年 喪

友七 三十歳 天明四年 喪

友七 甲四歳 天明六年 喪

友七 三十歳 日時 喪

奇特者

日領 船次船酒三村元町

百姓

孫平

寬政元年 褒賞

○孝行者

日領 鳥山城下全井町

百姓 孫平

孫平

寬政元年 褒賞

奇特者

日領 鳥山城下中町

百姓

板橋安左衛門

日時 褒賞

孝行者

大岡保徳寺領分 船次船寺子組秋山氏村

百姓

源次郎

明和五年 褒賞

孝行者

日領

百姓

源次郎

日時 褒賞

孝行者

日領 船次船寺子組自井村

百姓 孫平

勤右衛門

明和五年 褒賞

忠義者

日領 船次船次野村

百姓

長八

明和五年 褒賞

孝行者

日領 船次船井上村

百姓

孫平

明和五年 褒賞

孝行者

日領 船次船白町

百姓

阿久津茂左衛門

明和五年 褒賞

孝行者

日領 船次船久島赤村

百姓

半七

明和五年 褒賞

奇特者

日領 船次船次野村

百姓 孫平

若六

明和五年 褒賞

忠義者

日領 船次船次野村

百姓 孫平

新助

明和五年 褒賞

忠義者

日領 船次船次野村

百姓

若六

明和五年 褒賞

孝行者

日領 船次船寺子組法師畑村

百姓 孫平

八之丞

明和五年 褒賞

孝行者

日領

百姓

門兵衛

日時 褒賞

孝行者

日領

百姓

由八

日時 褒賞

○風俗宜者

日頌 於次那言久組弓落村

百姓

源七

明和五年

○風俗宜者

日頌

百姓

八右馬

日時

○風俗宜者

日頌

百姓

甚玄清

日時

○風俗宜者

日頌

百姓

程八

日時

○風俗宜者

日頌

百姓

長次市

日時

○風俗宜者

日頌

百姓

勃有馬

日時

○風俗宜者

日頌

百姓

八三市

日時

孝行者

日頌 芳賀於生田目村

百姓

友發

明和五年

忠孝者

日頌 芳賀於生田目村

百姓

傳友馬

明和五年

孝行者

日頌 芳賀於粟生村

百姓

兵發

明和五年

奇特者

日頌 於次那言系組三校格村

百姓

市有馬

明和五年

孝行者

日頌 於次那岩崎村

百姓

孫玄清

明和五年

孝行者

日頌 於次那南金丸村

百姓

太市

明和五年

孝行者

日頌 芳賀於七井村

百姓

五玄清

明和五年

孝行者

日頌 於次那板屋組弓落村

百姓

長八

日時

仲右馬

明和六年

孝行者

日領 於次於越地沃

百姓

三有馬

明和六年 褒賞

忠孝者

日領 於次於次左木村

百姓

勳六

明和六年 褒賞

孝行者

日領 於次於寄居組砂子村

百姓

大友馬

明和六年 褒賞

孝行者

日領 於次於言濃組入山村

百姓

仁有馬

明和六年 褒賞

孝行者

日領 於次於田町

百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓

仁有馬

明和六年 褒賞

孝行者

日領 於次於寄居組境明井村

百姓

傳有馬

明和六年 褒賞

貞節者

日領 於次於河系村

百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓

七

明和六年 褒賞

孝行者

日領 於次於河系村

百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓

七

明和六年 褒賞

孝行者

日領 於次於茶田町

百姓

平助

明和六年 褒賞

孝行者

日領 芳賀於大羽村

百姓

次有馬

明和六年 褒賞

孝行者

日領 於次於樓田村

百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓

次有馬

明和七年 褒賞

孝行者

日領 於次於植世系村

百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓

次有馬

明和七年 褒賞

孝行者

日領 於次於南金丸村

百姓

源有馬

明和七年 褒賞

孝行者

日領 於次於寺子但金田村

百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓

源有馬

日時 褒賞

奇特者

日領 於次於寺子但金田村

百姓

定七

明和七年 褒賞

貞節者

日領 於次於樓田村

百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓 百姓

三

明和七年 褒賞

孝行者 日領 形次郡川上祖南方村

孝行者 日領 形次郡大寺村

孝行者 日領 形次郡寺岩村

孝行者 日領 形次郡向町

孝行者 日領 形次郡向町

孝行者 日領 形次郡羽田村

孝行者 日領 芳賀郡稻毛田村

孝行者 日領 形次郡湯原村

百姓

百姓 藤原 後家

百姓 宇治 清原

年寄 宇治 藤原 左馬

町人

百姓 依 藤原 清原

百姓

百姓 宇治 藤原

辰右衛門 四十歲 明和八年 褒賞

七次 三十八歲 明和八年 褒賞

七次 十五歲 明和八年 褒賞

七次 五十一歲 明和八年 褒賞

七次 三十八歲 安永元年 褒賞

七次 五十七歲 安永元年 褒賞

七次 六十一歲 安永元年 褒賞

七次 三十一歲 安永二年 褒賞

貞節者 日領 形次郡大久保村

奇特者 日領 形次郡埴田村

孝行者 日領 形次郡大寺村

孝行者 日領 形次郡

忠義者 日領 形次郡大寺村

忠義者 日領 形次郡

奇特者 日領 形次郡稻原村

孝行者 日領 形次郡田町

百姓 藤原 左馬

百姓

百姓

百姓 源七次

百姓 武田 希妻

百姓

町人

山八 三十四歲 安永二年 褒賞

三六郎 二十歲 安永二年 褒賞

源七 二十三歲 安永二年 褒賞

七次 二十歲 日時 褒賞

武田 希妻 五十一歲 安永三年 褒賞

七次 四十五歲 日時 褒賞

孫右衛門 五十一歲 安永三年 褒賞

孫七 五十一歲 安永四年 褒賞

貞節者

日領 形次初門上村

百姓平吉為妻

三十五歲

安永四年 褒賞

貞節者

日領 形次初門上村

百姓亮之妻

三十一歲

安永四年 褒賞

貞節者

日領 形次初賀門村

百姓全之妻

二十九歲

安永四年 褒賞

孝行者

日領 芳賀初指毛田村

百姓

二十九歲

安永五年 褒賞

孝行者

日領 日所

孝女

甲八歲

日時 褒賞

貞節者

日領 形次初落合村

百姓新之妻

甲八歲

安永五年 褒賞

兄弟睦者

日領 芳賀初大田村

百姓

五十一歲

安永七年 褒賞

奇特者

日領 芳賀初清水村

百姓

甲三歲

安永七年 褒賞

孝行者

日領 芳賀初生田村

百姓

五十一歲

安永八年 褒賞

孝行者

日領 芳賀初下海邊村

百姓長之妻

三十八歲

安永八年 褒賞

孝行者

日領 形次初指波村

百姓長之妻

三十九歲

天明元年 褒賞

忠義者

日領 形次初言久組木信村

百姓長之妻

三十三歲

天明元年 褒賞

貞節者

日領 形次初田町

百姓勝之妻

五十四歲

天明元年 褒賞

貞節者

日領 形次初出多賀村

百姓源之妻

甲九歲

天明元年 褒賞

孝行者

日領 形次初真次村

依之妻

甲三歲

天明元年 褒賞

孝行者

日領 日所

依之妻

三十三歲

日時 褒賞

孝行者

日領 形次郡守居組成波村

百姓

文右馬

天明元年 癸亥

忠義者

日領 形次郡守居組成波村

百姓改次中男

幼六

天明三年 癸亥

忠義者

日領 日所

幼六妻

之

日時 癸亥

忠義者

日領 日所

日所

左七

日時 癸亥

奇特者

日領 形次郡守久組火燒村

百姓源守前母

世

天明四年 癸亥

貞節者

日領 形次郡守寺子村

百姓或方妻

右

天明六年 癸亥

奇特者

日領 形次郡守寺子組法竹畑村

組改

八

天明六年 癸亥

奇特者

日領 形次郡守寺子組片宮村

百姓

久左馬

天明六年 癸亥

孝行者

日領 形次郡守門日村

百姓

源

天明六年 癸亥

孝行者

日領 芳賀郡生田日村

百姓

源助

天明六年 癸亥

孝行者

日領 芳賀郡益子村

百姓

龜八

天明六年 癸亥

孝行者

日領 日所

龜八妻

甲

日時 癸亥

孝行者

日領 形次郡守居組成波村

百姓

田助

天明六年 癸亥

孝行者

日領 形次郡守居組成波村

百姓

源

天明七年 癸亥

家内睦者

日領 形次郡守居組成波村

百姓

大左馬

天明七年 癸亥

家内睦者 日頃

孝行者 日頃

孝行者 日頃

孝行者 日頃

奇特者 日頃

孝行者 日頃

孝行者 日頃

負荷者 日頃

本居

太七 日頃

三十七歲 天明七年

三十九歲 天明七年

三十九歲 天明七年

三十九歲 天明七年

三十九歲 天明七年

三十九歲 天明七年

三十九歲 天明七年

孝行者 大田系能彈身領分

農業出務 日頃

奇特者 日頃

奇特者 日頃

孝行者 日頃

孝行者 日頃

孝行者 日頃

孝行者 日頃

町人

安永八年

各主身身為父 天明二年

百姓淳在島味 天明五年

百姓 日頃

百姓 日頃

百姓 日頃

百姓 日頃

百姓 日頃

農業者

日頃 芳直郡祖母井村

百姓

平次郎

寛政二年

貞節者

日頃 船次郡上井村

百姓

文川

寛政二年

孝行者

日頃 船次郡松原村

百姓

在次

寛政二年

孝行者

日頃 大田郡下寺町

町人

甲

寛政二年

孝行者

戸田大炊屋領分 郡堂郡初木中町

百姓

徳左衛門

享保八年

奇特者

日頃 船次郡新井村

若主

久右衛門

天明七年

奇特者

日頃 船次郡

但氏

志平

日時

風俗直者

日頃 船次郡

魚百姓

日時

孝行者

日頃 船次郡初木上町

百姓

源左

寛政二年

孝行者

日頃 船次郡初木上町

百姓

芥八

寛政二年

孝行者

日頃 船次郡

芥八

浅七

日時

孝行者

日頃 船次郡初木中町

百姓

赤右衛門

寛政二年

奇特者

日頃 船次郡初木中町

百姓

八左衛門

寛政二年

孝行者

日頃 船次郡

八左衛門

忠義

日時

○孝行者

日頃 船次郡初木中町

百姓

在次

寛政二年

貞節者

日頃 船次郡初木下町

百姓

八

寛政二年

孝行者

日領 越後那朽木下町

百姓年存出帳

瀨玄勝

寬政二年 褒賞

○孝行者

日領 越後那朽木横町

醫者治新米孫傳

德治

寬政二年 褒賞

○孝行者

日領 越後那子後村

百姓金松妻

のし

寬政二年 褒賞

孝行者

日領 足利那五箇新田下町

百姓孫七傳

定七

寬政二年 褒賞

孝行者

日領 足利那五箇新田下町

百姓孫七傳

茂八

寬政二年 褒賞

孝行者

日領 足利那五箇村井子

百姓

孫七

寬政二年 褒賞

奇特者

日領 足利那五箇新田下町

百姓

兵七

寬政二年 褒賞

奇特者

日領 足利那五箇新田下町

百姓

友左

寬政二年 褒賞

奇特者

日領 足利那五箇新田下町

百姓

久左

寬政二年 褒賞

奇特者

日領 足利那五箇新田下町

百姓年存出帳

傳内

寬政二年 褒賞

奇特者

日領 足利那五箇新田下町

百姓年存出帳

那右

寬政二年 褒賞

奇特者

日領 越後那白葉田村

百姓

伊左

寬政二年 褒賞

奇特者

日領 越後那朽木上町

百姓

庄助

寬政二年 褒賞

奇特者

日領 越後那朽木下町

百姓

市兵

寬政二年 褒賞

奇特者

日領 越後那朽木下町

百姓

孫次

寬政二年 褒賞

奇特者

日領 越後那朽木下町

百姓

外右

寬政二年 褒賞

奇特者

水戸教領分
形次郡民部村

庄屋

傳左馬

寶曆元年
癸亥

奇特者

日所
形次郡民部村

庄屋

組次共

日時
癸亥

風俗宜者

日所
形次郡民部村

先子庄屋

儀重

寶曆元年
癸亥

奇特者

日所
形次郡馬込村

百姓

五十人

日時
癸亥

風俗宜者

日所
形次郡馬込村

百姓

極百姓

日時
癸亥

奇特者

日所
形次郡馬込村

百姓

与右馬

寶曆元年
癸亥

奇特者

日所
形次郡民部村

庄屋

傳左馬

寶曆元年
癸亥

奇特者

日所
形次郡馬込村

百姓

若右馬

寶曆元年
癸亥

奇特者

日所
形次郡馬込村

百姓

与右馬

寶曆元年
癸亥

奇特者

日所
形次郡馬込村

百姓

市右馬

寶曆元年
癸亥

奇特者

日所
形次郡久那保村

庄屋

沐右馬

明和四年
癸亥

奇特者

日所
形次郡大内村

庄屋

平六

安永五年
癸亥

農業出產

日所
形次郡大内村

桿蒔番

平五席

安永五年
癸亥

農業出產

日所
形次郡吉田上村

百姓

平七

安永五年
癸亥

孝行者

日所
形次郡小砂村

百姓

左重

安永五年
癸亥

孝行者

日所
形次郡小砂村

百姓

若右馬

安永五年
癸亥

貞節者

同領 形次和見村

百姓在七後家

三十一歲

安永五年

奇特者

同領 形次和武井村

孝壽

三十一歲

天明元年

孝行者

同領 形次和河文新田

百姓

六十一歲

天明元年

風俗宜者

同領 形次和久形澤村川崎坪

百姓

九百九十九

天明元年

農業出精

同領 形次和久形澤村

百姓

三十一歲

天明元年

農業出精

同領 形次和富山村

百姓

三十一歲

天明元年

農業出精

同領 形次和富山村

百姓

三十一歲

天明元年

○孝行者

同領 形次和馬次村

三十七歲

天明二年

農業出精

同領 形次和太内村

百姓

五十九歲

天明二年

忠義者

井伊孫和次領分 安蘇和太内町

百姓在右為後家下女

六十歲

享保三年

孝行者

同領 安蘇和太内町

百姓

三十一歲

寶曆四年

孝行者

同領 安蘇和太内町

百姓

三十一歲

明和八年

孝行者

同領 同所

百姓新七妻

五十五歲

同時

孝行者

同領 安蘇和太内町

百姓

六十歲

安永三年

孝行者

同領 安蘇和天明町

百姓

三十七歲

天明八年

孝行者

同領 同所

百姓

四十四歲

同時

孝行者 日頃 安蘇郡天明町

孝行者 日頃

孝行者 日頃 松平大和守領分 松平郡那志村

孝行者 日頃 古井大助領分 寒門郡寒門村

孝行者 日頃 松平久五郎領分 松平郡上高鴻村

孝行者 日頃

孝行者 日頃 松平郡友沼村

孝行者 日頃 松平郡下墨村

全田百姓小平次降

忠七 三十八歲 寬政三年

与七 三十二歲 日時 褒美

伊助 三十二歲 明和七年 褒美

若原 二十六歲 明和四年 褒美

淡右衛門 四十七歲 天明八年 褒美

与七 二十歲 日時 褒美

与七 三十一歲 寬政元年 褒美

与七 三十七歲 寬政元年 褒美

孝行者 日頃 松平久五郎領分 松平郡那志村

百姓

新之丞 三十七歲 寬政二年 褒美

孝行者 日頃

新之丞

与七 三十二歲 日時 褒美

孝行者 日頃

八汰 三十二歲 日時 褒美

孝行者 日頃

友八 二十四歲 日時 褒美

忠孝者 日頃 松平郡富田村

百姓持倉崎

鉄次郎 三十九歲 明和八年 褒美

孝行者 日頃 安蘇郡並木村

百姓

徳虎馬 四十六歲 天明六年 褒美

孝行者 日頃

徳虎馬

与七 三十六歲 日時 褒美

孝行者 日頃

日時

与七 三十九歲 日時 褒美

農業出精

日領
久世隱没守領分
郡於北武井村

農業出精

日領
河内郡西藤沼村

孝行者

日領
郡於郡部屋村

孝行者

日領
郡於郡部屋村

奇特者

日領
水北日向守領分
芳賀郡東水沼村

奇特者

日領
御門長門守領分
芳賀郡小深村

奇特者

日領
芳賀郡三坂村

孝行者

日領
芳賀郡坂根村

元右馬

寶曆七年
卒四歲

平右馬

寶曆八年
卒四歲

幸右馬

寬政元年
卒七歲

武右馬

寬政三年
卒七歲

田八右馬

天明四年
卒二歲

新右馬

明和五年
卒四歲

徳右馬

明和五年
卒八歲

弥右馬

明和八年
死後

奇特者

日領
芳賀郡塔井村

孝行者

日領
芳賀郡高岡村

孝行者

日領
日所

農業出精

日領
芳賀郡門又村

兄弟睦者

日領
米倉長門守領分
安蘇郡上水井村

貞節者

日領
在連門左衛門督領分
塩谷郡在連門河原町

孝行者

日領
塩谷郡在連門東町

孝行者

日領
塩谷郡在連門上町

百姓

利助

安永三年
五十一歲

徳次郎

安永九年
十一歲

くわ

日時
十四歲

次右馬

寬政二年
卒五歲

金右馬

寬政二年
卒五十一歲

加光

寬保三年
卒三十四歲

幼助

明和七年
卒五十六歲

次右馬

寬政四年
卒三十二歲

孝行者 日傾

貞節者 板倉主抗助知行所 河内郡上三門村

孝行者 富士二條中知行所 初賀郡下南戶村

孝行者 古井左門知行所 足利郡松崎村

不孝行者 横山織之助知行所 初賀郡新富村

農業出稼 同知行所 初賀郡金井村

孝行者 同知行所 初賀郡新富村

孝行者 同知行所 初賀郡富張村

決意為妻

百姓是為妻

百姓方決身母

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

志内 日時 癸亥

孝 三十三歲 天明七年 癸亥

与 三十三歲 天明八年 癸亥

清助 三十四歲 天明七年 癸亥

信次 三十九歲 年不知 癸亥

次 歲不知 寬保三年 癸亥

次 三十一歲 寬政元年 癸亥

佐七 三十五歲 寬政二年 癸亥

孝行者 伊多帶力知行所 初賀郡大村

奇特者 福原内通知行所 初賀郡河村

奇特者 同知行所 初賀郡河村

奇特者 日知行所 初賀郡河村

農業出稼 日知行所 初賀郡河村

奇特者 日知行所 初賀郡河村

奇特者 日知行所 初賀郡河村

孝行者 同知行所 初賀郡河村

年寄

百姓

百姓

百姓

百姓

名主

年寄

町人於決身

要次 三十九歲 寬政二年 癸亥

孝 三十二歲 天明三年 癸亥

由右 三十四歲 天明三年 癸亥

万右 三十四歲 天明三年 癸亥

七右 三十三歲 天明五年 癸亥

利右 三十一歲 天明七年 癸亥

源次 三十一歲 天明八年 癸亥

若右 三十八歲 天明八年 癸亥

奇特者

大庄屋 飯塚六右衛門
於波依法守知行所
於波那守居村

孝行者

百姓政七妻
曰知行所
於波那波呂島

貞節者

百姓作平後家
曰知行所
於波那波呂島

孝行者

百姓信四郎時
曰知行所
於波那波呂島

孝行者

百姓源次郎娘
曰知行所
於波那波呂島

奇特者

百姓
那波五知行所
於波那波呂島

奇特者

百姓
曰知行所
於波那波呂島

孝行者

百姓平右娘
曰知行所
於波那波呂島

大庄屋

飯塚六右衛門

天明三年

百姓政七妻

早八歲

天明七年

百姓作平後家

早八歲

天明七年

百姓信四郎時

早八歲

天明七年

百姓源次郎娘

早八歲

天明七年

百姓

早八歲

天明七年

百姓

早八歲

天明七年

百姓

早八歲

天明七年

百姓平右娘

早八歲

天明七年

天明三年

天明七年

天明七年

天明五年

天明四年

明和七年

天明四年

天明二年

孝行者

遠山守左馬知行所
於波那波呂島

孝行者

曰知行所
於波那波呂島

組改

庄右馬

天明三年

本庄馬組改是也

庄三郎

寛政五年

早八歲

孝行者利八

利八も芳賀郡西高橋村上組の百姓なり。四十まじり
 きたる父は金右衛門といふ。石はふりもらてある。一
 と。後父母とも長兄病にゆして田をも畑をも。實は
 とも。とも。あは。さ。あ。ん。地。ま。く。と。考。ひ。て。人。に。地。を。う。り。て
 とも。とも。も。ら。さ。れ。り。利。八。も。あ。ん。さ。あ。く。な。ま。い。り。あ
 とも。乃。用。と。し。く。ぬ。ま。に。ね。し。ら。ふ。ゆ。り。て。父。母。を。こ。ひ。あ。く
 とも。ま。ら。又。を。ら。あ。り。こ。う。く。し。て。看。病。を。ほ。く。せ。り。と
 寛延二年のしら。父。て。つ。も。よ。う。を。ぬ。志。す。故。母。は。夫。乃
 う。せ。と。涼。く。飲。ま。く。粒。も。病。お。ら。に。な。り。又。き。れ。り

け村の内なる甚き病とつゝも此は利ハく妹を嫁せしむ
 うこれとまじく妻をくゆへのあうすあまひ父乃全
 右病つゆとをくれてをかめさうぬ歎このう人よりと
 うりも多病より人あまを病く相氣乃やうにさうけら
 を母病ゆあくれうりあ我家よむ人より一に二人
 中と病人もく外に女抱さく此のなけせハ利ハ
 かくあハ奉とぞんあさくあふかく小作さく人の
 田地を作り又日くわうに雇をれそのあまをさ
 食さる一飯のうちをもつらとて二人よを先を
 めらさ暑のいさひさう衣業と勵む月あはつれを

由と人とも二人は時々衣服をさせ冬とあまも
 病乃ゆさまのゆ人あねと相ふたさうり落葉
 ぬさく焚火をまうけ夏のぬと蚊帳をふさうこれ
 大書字とかりて蚊やりさかすうも眠さく女抱
 うり病ゆ母はあま七十九老とかり病てつあま
 事をさかすねと神佛よまうてゆりおとひれ
 ハ喜迎のなしてさく春おひ女抱くこのあまたよ
 事ふく村乃内の人とも其孝行を感してもれ
 ちうとつゝ人まき妻乃媒ともあしけとわくま
 しさう人よ妻ゆむ人あまをさうさうさう世後

にくたつてその法を母乃きむもをりてにたつらん
 少とありけりし法かふるはひ逃村よかくれおとすは
 人くれりて人を戒むるまこと利八を孝母へくと
 と稱しきふ又母を村乃組隊より利左馬利八
 兄より推し付よは村の方をあり件よ表りてわりの
 身は銀箱をとりつりれ合力をとちさんといふは
 母も利八もかきと人の敵をばき母小當りも長く
 さんありはその助けをうまん事よ進りてうなきり
 いらはとありしけしといふもたかくてくみく
 時ハさぬといふははるくつりけしとありて入

どう備ふ二人のやりぬれをむらぬとなく分抱
 一人は安んじてもありけりしと明和六年十月
 此地乃清代官特約左十席かくとせえしはくは子
 銀箱をりて我を獲たりて

孝行者利左馬

利左馬は水須郡東智村の百姓なりつては農業に
 意を付控をとり公をりて村をさるやまの山
 もさる地をく製しけりて貢物ふと人よりきりてお
 さりて法井は意を奉るなりきこりて十一歳の時父の
 十五馬の物よりりていふはつてそのあまうよと居る

吾下はをこひてりしをわがわが里いともあふ親族乃
 名を為とてさうりてい父をうつてを日東枕とてさす
 看之病しされと申變たうと母は由りうせあうと
 主歎といえんこをくともさうかきて十六年あり
 一時祖母の病はゆへぬと父の屋をたけりて
 たらんはんとさくはよまをたふれえ老の身はそん
 うこわらんを思ひやりくは是とて我肌とりて
 何ぞと父との女抱ゆるわくたうりて母とわが
 身はれもむさうくわぬとねる一人の母は孝け
 せしに母は病くらしく月毎一二夜をうり八咽れ

されぬらばおやりのう事そん自由をうりて
 と利左馬の母をたふり深く歎とて母へをばらり
 志らばはをれ里れちまにいらる石の地帯へ一七日の
 うちうふくゆうてまう人をたうぬらぬら烟草は
 ませふたらとあうこよいのりけら志向しやうく程
 もたうく意うてを後いそまをたやまうとまうり
 かくいあつてうとや七十の乃齡とをまうり三年
 たらりされり身も自在あうは赤うくわあう
 せしと利左馬の日夜こころふにりて母の我名とてハ
 さうやういふを由起外のまひてうと意はよ女抱く

服業ハ心とけ乃衣をこいに代入多をち寒暑とて
 我方をきくに申入るに只母の事かと思ひつけ
 ぬ又金かりて母の金を借付へはらふとゆふに
 不見らさぬよめくちりゝあまんとをさうりしめ
 耕作或は未ありふとよ出る目と志をくつりあ
 女をよとひ胡夕れ食も母のぬき教めのとてけ十
 八年をわうとて妻を返へたふつ母れんよかまをえ
 七度ソのりささよ縁きりて出へるり外よ二人乃
 兄中もちくかまめか、農中に志をへくこく親と
 人くはの書とひ入てんやとひひとてかへりて孝

是れ坊げよまてくこくをさうりきかく母に孝ふ
 ふ乃とちりす親族よりり先一村隣里よと睡ひ
 けら種日は一御利左衛門うけひよ習ひて風俗はよ
 ら後く申りてかかんされとけ地の代友は六希
 左衛門とよく公に支えにけく銀をととく此獲
 賞と給なりしハ元徳二年五月の事なりとて

孝行者佐左衛門

佐左衛門ハ芳賀郡荒町の百姓として初名と幸吉也
 少くして石をめまうり此田をりらまうり元天明四年
 母病といひくやとて父佐左衛門とくつこくりしと

孝者うまういふけさればこそいかに病をたすけ
 業はかりと見えよけ田舎の事たすむと醫者こそも
 ちうか家貧くもふんろまうれ療治とまうけこそれと
 一日もまわく病のいえん事をせめてまう位あうり
 八町あまりと隔りてゐる氏神大常陸院に曰く町の
 うらにありむる笠森稻荷は百日乃る病者の紐つり
 くまふん付くくを夜とまう海うてまうれとを
 その後らら次記后もありけり二夜も下り抱
 こさうへく杖しり八日たりりたまことまうれ父佐
 右衛門もまう麻病とまうれ二親ともいをまう

けとち農事もまうけく日傭まを巻とそれたまひ
 く衣食に苦くまうけ八看病のいとほは系後馬乃番か
 津くのまうれ目といふか直村もい英く次父乃
 病まは砂糖水飴の敷うくまうけま父母はかくく
 こま夜とらまうまうけ一是を来りくまうけけり父
 氣のいすわくまうけまや及家のうくまうけまあひい
 て夜まわれを母をぬい夢はまうけまうてんと懸
 先りり父は病室のけけを金毘羅の神よりまうけ
 ま甲斐まうけま父らまをぬくまうけまうけま中あま
 と送葬の設もまうけ次せんくまうけて組合たうけ

久次よりいふより金かりてふまゝのいしを
 ちり母の病を大にいへりといひし事ふまゝ
 己一人乃かせたふまゝ苦痛といふも借くる金かへを
 毎にさしつけふけしむまゝやといひし事ふまゝ
 てかりといふよりつとて田畑を二限つてはくしよ
 久次もそすきしつとていふよりいふまゝといふ
 のともいふまゝいふよりいふまゝといふまゝ
 といふ人寛政六年六月廿四日官行頓之在馬場といふあけ
 て御座り候と乃浪と下り賜り候なり

孝行者

如孫く島山乃城下金井町中すし於定右馬の娘なり
 兄二人ありしは長いふと而こく若死に候よりいふ
 行て奉公しつとこの孫助といふ人ありしは
 父の病を立たりておにまゝか孫ハ又進之村に嫁り
 せしにいつとあるなりや安永三年此より嫁りし
 出さしけられせんといふおにまゝの孫隣町なる安永三年
 うりふ小乳母をさしつと孝にまゝいふよりいふまゝ
 て父母をとりぬ父と綿糸事と世渡りといふ
 もいふいまは老をまゝいふよりいふまゝ
 進之といふまゝいふよりいふまゝ

母の死日と蒲團のともひ日とに侍ひ祈ぬく
 父母より小老より上乃痛む事と云ふ若くは
 ぬをうしの子をうしして扱ひる事をいふ人毎
 左馬も涙く感く事十二歳をいひるなり貢の金よ
 白乃比ちうこつては進ハる謝礼日とて常いふ事
 家々用事とつけ入るりくことされまよや見の事と事
 けり物とゆふ事と金と事と持りて天明八年
 の冬死する事と申すて貢の金と納り又安老の
 事と借給事と事と申すつて借ひたり次の見も事
 別れ給ひと事とたれく物なり世集して妹とたれ

外抱せしと是ふ事と孫孝人なれりつてかきあり
 ことごとくそのれりたれり領主に侍へ出さるる寛
 政元年正月の給ふ米の褒美をいふ人安老馬も
 こと志奇物たれり事と金と事とせし賞と事と

風俗宜者源七

風俗宜者八在邊

風俗宜者基之端

風俗宜者控八

風俗宜者長次郎

風俗宜者御在馬

あまこたひるころおやく此後と定めらる程り
 次第に其数も積り由ふとふ凶年亦終るころ
 明もその秋重び入るふも此多うりしと申して反
 それくの子孫と申り 命五り不和乃基少と
 たうら極くと申り 命五り全れ救ふと申れつけに
 しくと人懐こつたとしてくを焼くあつり又至明
 二年ハとて此実の味乃れ申あつり申りしころ
 利足をとらふと今申してうれ銀羅と救ひ又自
 ちの命とすめぬと我家より命ひをた成長は
 まらしく人に懐きしめあつら馬とてをたれりし

さ致人日つたをせ致事多うのころ終り傾まも
 其志乃れ先やうなる代称英しくあられ四年
 の三月小舎と申しせられうとに老を去りた
 りよとてく縮乃れ夜とら事ともゆふせしと申

農業出精文題左馬

ち魚左馬ハ於次郡臨井山村の名主を言ふつた也
 年ハ後農事と勵めて曉もは庭屋のうらうらの
 股引とをたれめ致とて申しと田面よりく事数
 十石よ及びぬとてとて一日もかゝりしと今うら
 ちやぬを懐りして強居く此よ言も豊なり何

ゆゑにき人れをたりのふとてりて父母の女抱
とらふにちるん事とありてとてあけい
き原又村乃内いさらももつてはをさといをり乃
里人へもらうやりてはく変りてれを能より寛政
元年二月日米共とてく此獲英とてりて人へとてり

孝行者長平治

都を初柄本中町に居る孫太郎ハ男女五人の子と
ありて其長女日賀養子とてありて長平治とて
よひけるをれは後ち家乃りりて七人ありて
一二年ちの初り種り長女母と実乃り此市原次と

又我母との縁終せまわつたふありてとてり
長平治の夫婦は向いともをれ事とていひてあり
うらとてに睦くしては親族おもひて長平治
夫婦と反おをよとていひて事とていひてあり
と世渡りよするたをきれはとてり此金銀も二人は
へ流しとて長女母は初りてとてり又いふありて
又とてれはとてり長平治の初りけりてとてり
長女母のふよ急せぬ事とてり初りてとてり
つとてり長平治の初りてとてり初りてとてり
世渡りて初りてとてり初りてとてり

刈さしむと云ふ事由こ二人と云ふを勵むける
 父も折れぬとて其業を助けぬと人並より
 ありやと云ふれども母はせんこおん人のあはれを
 と云うて世を渡す助けと云うた又と云く
 は町乃市立と云ふ世棚と云ふ見目の業まとう
 ぶあつ紐父の死をくうり後門の事自由ふ
 てもたし人を存してこころをいふと云はあつた人
 と云へるいふと云ふ父と云ふ病の身もくうり見世棚
 乃具あつたと云ふゆゑに云ふ事ありと云ふと云ふ
 親をけしむ徳承初と云うて見世棚のまらるは

善いふと云ふ相まくと云ふゆゑに云ふ事ありと云ふ
 運いふと云ふと云ふと云ふ父をもけしめりや
 其事申れ目よと云ふ事いふ事いふ事いふ事
 云うと云ふ領主に云ふ事いふ事いふ事いふ事
 其後を寛政二年の四月と云ふ事いふ事いふ事
 と云ふ事いふ事

孝行者のよ

のよハ都実初子後村乃百姓倉松と云ふ事ありと云ふ
 此家目来りしと云ふ事いふ事いふ事いふ事
 と云ふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

對しとあ操をらわぬとそはらほうけふ氣を
 おく備兵く貞節とそちりける田地も九石四斗
 一石半の持をれとそは耕作するなるとわてくうち
 控くれとありき教を村乃因の老のよゝ志よ感
 しとあ誰をのじともたうおふり耕作しくとら
 せけり寛政二冬の四月終まよりそのより米
 をとらへく種をせくとそ

奇特者孫惣志馬

孫惣志馬のハ於次郎之助濱村の在屋より十二石九斗
 一石半の持をれとそは耕作するなるとわてくうち

困窮しとあ貢物乃米とそはなまよりかりゆい
 おと孫増しとまかりとせれと富り教ぬくとそ費く
 ちりは井は離敷しとあ村の役つとせふりの一人
 きふまうりあとしは孫惣志馬のハ於次郎の在屋とそ
 為とせとせよ村のうられありとさあうりと改ち教る
 らぬ小民の衣服とそりたると割くうらりの
 に質素なる控とそり繁雜の費は昔とそり
 たりりり後とそりまこと乃うらに披せと教りのも
 とせけとそれ費は昔とそり種とそりこれ御い
 たりとせれハさのほと質朴の風俗とそり

高田郷有馬のまゆらひをうまくとりくに條約
 とせりままおかく高田郷有馬のハ一村乃内の地味
 ごとく混雜しく檢地帳より合算数をハ明白に
 改め又一人と小畑れく又日指とてハ其代極をた
 くと利徳とせり又荒たる田地をこり人吏とも
 くとあつとせり賞とせり見す人ハ課税よりま
 むふふこより債ひおとせりハ田畑ハ信
 作といふ事にしてハ法より作り或は十人と一組
 とせり組おとせり富一帳つとせり
 ともこれ日得とせりて村乃内の吏食よりせりま

新小百姓乃高田郷にてハ農業をとりて未進
 負り高田郷にあらぬに出くろのまよりとせりま
 ちひく救釋といふを給りてこれとてハ未進負り
 と債ひてハ高田郷にあらぬとてハ未進負り
 又せり農業と勤事よりハ高田郷のあらぬとて
 ともハ高田郷ハ一村乃風俗をらまらに引り
 ともぬよりハ領主ハ明和四年三月後乃高田郷と
 ともあらぬと

孝行者法六

法六高田郷有馬頭村小くともハ高田郷

百婚ありては父のせし事と添へたけし日
 夜もいかに沈みぬ眼を脱し志由んとす
 我も中もとほくは療養をそとせしと終
 盲人とちりぬ母は父乃をりいりし時より貧祖
 としに病小ゆくは久く農事の助もとちり
 かゆくは納文此食物のて調へむかふ今ハ母子二人
 たりて目く入りしもいへたりおれは清六如き
 時よりとちりぬ業もいへ盲目の男をうけり人くと
 同くは納し耕作を勤むる帳もは薪とごりいり
 是業後ちりて作りては母と孝行いりかふく農業と

勤めぬと父より受け給へ田地乃因り新小めれを
 不もまうりも終とすいあ下田多き事ハ盲人の手にて
 力をそははしりともいへれりいりいりいりいり
 法も小銀難し及ぶなりとあれと母もは名自由か
 らぬをうにん代用由又寒暑をそへ凌ごういり
 中たれと貢納ら事ハも期小きかす事ハ人り
 いさかたは事と母れつもいり事と思ひさ
 てゆい法直とあも耕作よ出ぬる外も志しり
 切ぬさしりともかれは只老乃いり勉めんとす
 志しりいり不きれ男をりてはちぬ事ちり丹誠を

是くけしと天明二年の六月より生涯の内まこと
教めし人事を領主より命せられし

孝行者よ孫

よ孫と都賀郡普生町此百姓新く並う妻ありし
舅姑六七まじりてこれより申病をなすもあきら
まへ時をばましとよ孫を初とし小く起て舅姑を
煙のやうにいをさしめ先葉子系をとをさけはる内
史ととも先を中乃八孫友八たことしるも田圃より
ゆりて人く田人して初飯を合の又農業に出し初
とよね一人家よとまのりく好先るものと個人くませ

と氣さめしきおはきも母とておこししく慰めぬを
と忽ち小歩歩ひきり只よ孫う名をのりて人を
くまのいりし舅姑風呂と好むと終るよとみり
志行らひしに史乃今日の娘とてまきぬれしとく
風呂たぐ事とてくけら舅のすて我も風呂は及
入ましとてつむく服立らふとよ孫とぬくしをさめ
すゆしとつむく舅れ帯流とてつむく人て湯とぬを
とあよ今日ら久くゆめ湯あめしとぬとて終るは
尾よりこれ母好む事志けし中を新くぬとてつむ
たらぬとぬ後まらしとたのりてつむく小氣とて

孝義錄卷之十一

[Faint, illegible vertical text, likely bleed-through from the reverse side]

[Small vertical text on the left edge of the page]

